

横須賀市におけるスマートシティ／モビリティの取組
“ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ”
における自動走行ロボットの取組



横須賀市 経済部創業・新産業支援課

(1) ヨコスカ×スマートモビリティチャレンジ について



横須賀市の産業的な強み

2

横須賀市の産業

横須賀リサーチ パーク(YRP)

- 設 立： 1997年10月
- 位 置： 東京から約60km 南に位置する横須賀市の丘陵部
- 面 積： 約60ヘクタール（東西 約2km / 南北 約500m）
- 進出機関： 57機関
- 就業人口： 約4,500人

情報通信産業関係

自動車産業関係

YRP進出企業

NEC

FUJITSU



NTT

KDDI
KDDI Research

UwL
Ubiquitous Networking Laboratory

NTT
docomo

YAZAKI

NIFCO
WOWING THE WORLD



YRP情報産業協同組合(17社)

市内の中小ICT企業を中心に組織。
情報通信等のシステム開発及び関連
業務を共同受注。

横須賀工業振興協同組合(86社)

追浜工業会(57社)

古くから金属加工、自動車関連部品の
製造を行っている中小製造業が多数
加盟。

公的研究機関



電力中央研究所

KEIKYU
京 急 電 鉄

➤ YRPの建物等を所有

公共交通サービス等関係

➤ グループ企業を含め、市内で公共交通サービスを提供

ヨコスカ

【産業的な強み】

- ・YRP(横須賀リサーチパーク)における世界最先端の情報通信技術と人材
- ・自動車製造、造船などの基幹的な工業力
- ・鉄道、バス、タクシーといった交通サービスが包括的に提供しやすい環境

【地域の課題】

- ・横須賀市は人口40万人の中核市で、山や海といった豊富な地形を有し、谷戸等ラストワンマイルの移動が困難な地域が多い
- ・少子高齢化、人口減少(流出)といった社会問題が我が国の中でも先進的に進行

スカ×モビ



スマートモビリティ

【技術的トレンド】

- ・超高速・超低遅延・多数同時接続の特徴を持つ5Gの実装が間近
- ・CASE(コネクテッド化、自動運転化、シェア化、電動化)により自動車業界が大変革期の機運
- ・MaaS(モビリティのサービス化)により移動手段の選択肢の多様化とそれらのサービス統合の機運

【実装のインパクト】

- ・モビリティをスマートにすることで、社会課題の解決や地域活性化の可能性
- ・次世代のモビリティに関するサービスにより、新規ビジネスや新産業が創出される可能性

チャレンジ

横須賀の産業的な強さを結集させ、モビリティをスマートにすることで、継続的に発展可能で豊かなまちづくりの可能性にチャレンジ！

ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジの特徴

- 何のためのスマートモビリティか？
 - △ 移動の困難さを解消するための新たなモビリティを導入すること
 - モビリティをスマートにすることで都市を持続可能にすること
- まちづくりに重要なことは何か？
 - △ 行政が予算を拠出し、民間企業がシステム実証を行うこと
 - 民間企業が実証をしたくなる環境を行政が構築すること

ヨコスカ×スマートモビリティチャレンジでは

- ① “超”強力な推進体制
- ② 体制に裏打ちされた明確なビジョン

を構築

ヨコスカ×スマートモビリティ推進協議会



会長：横浜国立大学	中村副学長
副会長：関東学院大学	規矩学長
委員：京浜急行電鉄(株)	原田社長
日産自動車(株)	土井研究所長
(株)NTTドコモ	中村CTO 等

“超”国プロ級の体制でスカモビを推進

顧問



横須賀市 上地市長



小泉進次郎衆院議員

横須賀スマートモビリティ宣言の概要

誰もひとりに させないまち

どんな場所に住んでいても、年齢や身体的能力がどのような状況にあらうとも、誰もがイキイキと生活できる包摂的なスマートモビリティ社会を追求

個性あるコミュニティを再生



地域の足を変革



新たな価値を つくるまち

スカジャンを着るように、シーンに応じて様々なモビリティサービスを使いこなす「スカモビ」というスタイルを提案し、市民のライフスタイルを変革

まち歩きの体験を変える



道路と乗り物の役割を変える



活力に溢れる まち

モビリティをスマートにすることで、市外の人々を横須賀に惹きつけ、または、横須賀の地域資源を市外に効果的に発信しまちの魅力をさらに輝かせる

まちの魅力を伝える

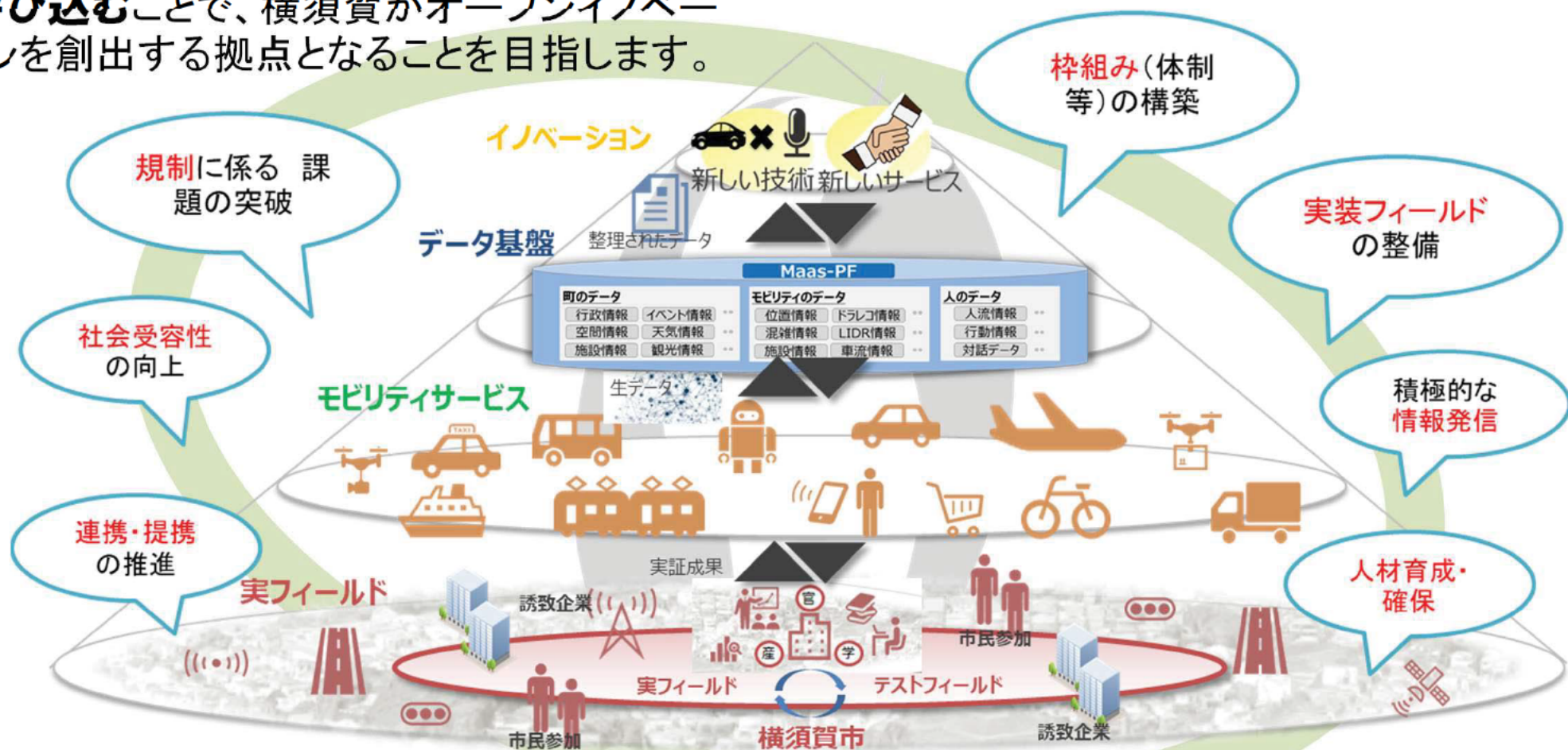


一次産業を輝かせる



宣言に基づく支援パッケージ

市内外から分野横断的に様々なプレーヤーを呼び込むことで、横須賀がオープンイノベーションを創出する拠点となることを目指します。



いち早く検証でき、試行錯誤を素早く繰り返すことができる実フィールドを整備することにより、横須賀が日本のモビリティ産業の成長を促進します。

推進ロードマップ

推進ロードマップ

2018 2019 2020 2021 2022

協議会
設置

ラグビーW杯

東京オリンピック・
パラリンピック

第1期
終了

①地域生活継続支援
モデル

②まちの拠点循環モデル

③観光振興モデル

その他の社会実装モデル

フレーム
ワーク、
ロード
マップ、
KPI等の
設定

・ラストワンマイルを補完する
プレモビリティサービスの提
供開始 等

・自動運転巡回移動プレサービス
・横須賀版MaaSのプレサービス
提供開始 等

・日本初の外国人訪問者用プレ
モビリティサービスの提供
・拠点となるスマート駅等の実現
等

プロジェクト推進の状況や参加者の拡大に応じて、様々な社会
実装モデルを立案し、モデルの確立に向けて様々な取り組みを実施

日本・世界に展開可能な地域
生活継続支援モデルの確立

日本・世界に展開可能なまち
の拠点循環モデルの確立

日本・世界に展開可能な観光
振興モデルの確立

スマー
モビリティ
による
まちづくり
日本・世界への展開

2022年度までに、モビリ
ティサービスによる地方
のまちづくりモデルを
確立します

2020年度までに、モデル
構築の鍵となるいくつか
のモビリティサービスの
プレ提供を開始します

2022年度までに、200者
を超える企業等の参画、
50件を超えるプロジェク
トの創出を目指します

①枠組みの構築

②実装フィールドの整備

③規制に係る課題突破

④社会受容性の向上

⑤情報発信・広報

⑥連携や提携の推進

⑦人材育成・確保

・推進方
策の立案、
・本取組
の展開戦
略の検討
チームの
創設

・チャレ
ンジ2019
の開催

・プロジェクト推進型の体制構築
・補助金獲得など着実な実績づくり
・関係団体等との積極的連携

・施設利用や市民モニターの実証
参加などスキーム確立
・実フィールドでの実証の実施

・地域を限定した規制緩和の実現
・規制に係る事務手続支援の
実施スキーム確立

各種活動の着実な実施と認知度の向上

YRP以外の
イベント等

YRP以外の
イベント等

サミットの
実施等

・本取組に参加する業界・分野
の大幅な拡大
・社会実装に向けた体制構築

・開発・実装に必要なイン
フラ設備等の着実な整備
・部分的な社会実装エリアの整備

・これまでの実績を踏まえた
大胆な規制緩和等の実現による
スーパーシティの実現

次世代モビリティ関連技術・
サービスに関する世界最先端
の実証・実装環境の実現

主要KPI(一部抜粋)
※2018年度初比

2022年度末
の目標値

本取組に参加する企業等の数	200者以上
スカモビ推進プロジェクト 選定件数	50件以上

チャレンジ2019 チャレンジ2020 チャレンジ2021 チャレンジ2022 チャレンジ2023



(2) 自動走行ロボットに関する取組



スカモビ支援プロジェクトの紹介

10

～自動走行ロボットによる観光振興・買い物困難者支援～

- 市内のうみかぜ公園で、楽天がロボットによる配送サービスを実施
- 2019年9月から約1カ月間の期間限定での実施
- 一般利用者を対象とした自動走行ロボット配送サービスは国内初

対象エリア



実証イメージ

実施期間: 2019年9月21日から約1カ月間の週末

利用方法: 「楽天ドローン」アプリから注文

配送料: 300円

主な商品: BBQ食材、野菜、酒、飲料、菓子、消耗品、
絆創膏などの救急用品など





スカモビをあなたとともに！

ツイッターもフォローお願いします⇒
(https://twitter.com/suka_mobi)

